

彙報

第二六回総会及び研究集会

木簡学会第二六回総会及び研究集会は、二〇〇四年二月四・五日、奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂において、一六三名の個人会員、二団体の団体会員の参加を得て開催された。会場には、平城宮跡第九二次調査出土木簡・藤原宮跡朝堂院東南隅出土木簡・石神遺跡第二六次調査出土木簡（以上、奈良文化財研究所）、禁野本町遺跡出土木簡（叻枚方市文化財研究調査会）、青木遺跡出土木簡（島根県埋蔵文化財調査センター）、新田（一）遺跡出土木簡（青森市教育委員会）が展示された。

◇二〇〇四年二月四日（土）（一三時～一七時）

第二六回総会（議長 吉岡眞之氏）

佐藤宗諄会長による開会挨拶の後、以下の報告が行なわれた。

会務報告（渡辺晃宏委員）

会員の状況（個人会員三三八名、団体会員四団体、海外会員四名の他、二〇〇五年度新入会員一名）、会員サービスについての報告があった。

編集報告（館野和己委員）

『木簡研究』第二六号の編集について報告があり、頒価を五五〇

〇円にする旨の提案がなされた。

会計・監査報告（二〇〇三年度決算）（山中敏史委員・東野治之監事）

山中委員により、二〇〇三年度会計（一般会計及び特別会計）の決算報告がなされた。これについて東野監事より、会計が適正に執行されている旨の監査報告がなされ、あわせて財政状況を改善するための付帯意見が出された。

会則改正（渡辺晃宏委員）

事務運営を機能的に遂行するための組織改革として、評議員制度新設を柱とする会則改正案が提案された。

以上の案件は、すべて原案通り承認された。なお、新会則は前頁を参照されたい。

会計報告（二〇〇五年度予算）（山中敏史委員）

新会則に基づき、二〇〇五年度予算案が提示され、承認された。

役員改選

次期（二〇〇五年度・二〇〇六年度）役員について、新会則に基づいて改選が行なわれた。立候補者がいなかったため、榎山明委員より候補者の提案がなされ、承認された。総会終了後、会長・副会長互選のための臨時次期委員会を開き、榮原永遠男氏を会長に、館野和己氏と田辺征夫氏（留任）を副会長にそれぞれ選出した。新役員は別表（x頁）の通りである。また、研究集会二日目の休憩時に再度臨時次期委員会を開き、委員の役割分担（編集、企画・情報、会

計、庶務)を定めた。

研究集会

報告(司会 小林昌二委員)

二〇〇四年全国出土の木簡

出雲市・青木遺跡の調査概要

青木遺跡と出土木簡

枚方市禁野本町遺跡と出土木簡

新田(一)遺跡の調査と木簡

安芸国分寺跡の調査と木簡

馬場氏の報告は、二〇〇四年に全国の遺跡から出土した木簡、及び二〇〇三年以前に出土した木簡のうち、これまで本会で把握でき

ていなかった分についての報告である。そのうちの多くは本号に報

文を掲載できた。今岡、平石、西村、木村、妹尾、佐竹各氏の報告は、それぞれの遺跡における発掘調査成果の概要、及び出土した木簡の内容についての報告である。

◇二月五日(日)(九時～一五時)

研究集会

シンポジウム「中国簡牘研究の現状」(司会 角谷常子氏)

基調報告

荊州地区出土戦国楚簡―特に包山楚簡・郭店楚簡

・上海博物館藏楚簡を中心に

廣瀬薫雄氏

江陵張家山漢簡

長沙走馬樓三国吳簡

龍山里耶秦簡

パネルディスカッション「豊かな木簡学のために」

(コメンテーター 佐藤 信氏)

シンポジウムでは、中国で近年あいついで出土している戦国、秦、漢、三国の各時代の木簡について、各報告者から紹介がなされ、中

国簡牘の研究の現状と課題が提起された。これをふまえてパネルディスカッションが行なわれ、活発な討論がなされた。報告内容につ

いては、本号に論文を頂戴することができた。

なお、昼の休憩時には平城宮跡中央区朝堂院朝庭の現場見学を予定していたが、降雨によるコンディション悪化のため、講堂におけるスライドによる説明に切り替えた。

討論(司会 坂上康俊委員)

前日の木簡出土事例報告も含め、全体にわたって質疑応答が行なわれた。最後に、田辺征夫副会長の挨拶により閉会となった。

委員会報告

◇二〇〇四年二月四日(土) 一〇時半～一二時

於奈良文化財研究所

総会に先立ち、会務、第二六回総会・研究集会の予定、会計報告

(二〇〇五年度予算案及び会計内規の変更)、会誌二六号の編集報告及

び頒価、次期役員候補者の推薦などにつき、報告、提案がなされ、協議、修正を経た上で承認された。

◇二〇〇五年六月一日(水) 一四時～一七時

於奈良文化財研究所

以下の案件について報告、協議がなされた。

- 1 新委員会・体制の発足について。新会則の確認、新委員会構成員及び役割分担の確認を行ない、運営体制について協議した。2 会務について。常任委員の委嘱、会員の異動の確認を行ない、常任委員会などの開催についての報告がなされた。3 入会審査について。入会申込者八名についての報告がなされ、審査を行なった。4 会計報告、監査報告について。二〇〇四年度決算報告、監査報告がなされ、承認された。あわせて、厳しい財政状況についての対策を協議した。5 『木簡研究』第二七号の編集について。編集担当者を寺崎保広委員とすること、及び編集状況についての報告がなされた。6 第二七回総会・研究集会について。日程を二〇〇五年一月二三日(土)・四日(日)とすることを確認し、内容について検討がなされた。また、総会当日に開催予定の当該年度第三回委員会の進め方について議論した。7 九州特別研究集会の準備状況について。二〇〇六年に開催を予定している特別研究集会の準備状況について報告があった。8 その他。雑誌『日本歴史』への会誌広告掲載の件、京奈和自動車道問題についてその後の経過の件、第二回委員会の日程の件について

て報告、確認がなされた。

◇二〇〇五年十一月一日(木) 一四時～一六時

於奈良文化財研究所

以下の案件について報告、協議がなされた。

- 1 会務について。会員の異動、常任委員会などの開催について報告がなされた。2 入会審査について。入会申込者八名について審査を行ない、全員の入会が承認された。3 会計報告について。二〇〇五年度会計中間報告、二〇〇五年度下半期収支予定について報告がなされた。ひき続き二〇〇六年度予算案について提案がなされ、審議の上承認された。4 第二七回総会、研究集会実施要項について。日程の確認、内容の検討を行なった。5 『木簡研究』第二七号の編集について。編集経過について報告がなされた。6 九州特別研究集会について。七月二日に第一回実行委員会(委員長坂上康俊委員、委員赤司善彦氏(九州国立博物館)・児玉真一氏(九州歴史資料館)・酒井芳司氏(同)、中間研志氏(同)、橋本義則氏(山口大学)・東中川忠美氏(佐賀県教育委員会)・松川博一氏(九州国立博物館)・山崎純男氏(福岡市教育委員会)・山村信榮氏(太宰府市教育委員会)・渡辺晃宏委員)を開催し、日程を二〇〇六年九月一五日(遺跡見学)・一六日(研究集会於九州国立博物館)と決めたこと、運営委員会(委員長赤司善彦氏)を発足させて準備を進めることなどが報告され、了承された。

(古尾谷知浩)